

文献リスト<1981-(2)>

- 飯島敏夫. ムジナモの捕虫運動. 植物と自然
15(12): 19-24.
- 植松利夫. 布袋草(私の好きな植物). 植物と自然
15(11): 16.
- 金井弘夫. 尾瀬ヶ原の池塘地図と水生植物の分布.
生物科学 33: 175-178.
- 川島長治・千葉和夫・平野哲也. 多年生水田雑草コウキ
ヤガラの防除法確立に関する基礎的研究
第2報 塊茎の萌芽および出芽について.
雑草研究 26: 123-128.
- 橘ヒサ子. 福島県裏磐梯高原の湿原植生.
北海道教育大学紀要(ⅡB) 32: 33-48.
- 富久保男・小林正志. ホテイアオイの生態学的研究
第2報 越冬に関する微細気象学的調査.
雑草研究 26: 111-117.
- 野沢治治. 我が国における海草の分布. 植物と自然
15(13): 15-19.
- 浜島繁隆. 東海地方のため池にみられる水草の分布と由
来. 地域社会 6(1): 16-26.
- . ため池の水草調査3-三重、岐阜のため池-
植物と自然 15(13): 27-30.
- 松平康邦. オニバスと25年ぶりの出会い.
レポート日本の植物 No.11: 104-105.
- 松本 聡. ウキクサによる富栄養塩吸収とその利用.
化学と生物 19: 594-600.
- 村田 源・別府敏夫・野淵 正. ミジンコウキクサにつ
いて. 植物分類地理 32: 197.
- 百瀬忠征. 写真にみる実験観察材料としてのオオカナダ
モ(8)-オオカナダモの仲間たち②-
遺伝 35(10): グラビア.
- . オオカナダモと私. 採集と飼育
43: 464-465.
- 山河重弥・小林央往・植木邦和. 日長処理の差異がオモ
ダカ(*Sagittaria trifolia* L.)の生育および繁殖体の生産に及ぼす影響.
雑草研究 26: 118-122.
- Harada, J., T. Tanaka & T. Sassa. Sprouting
of dormant tubers of *Sagittaria trifolia*, a per-
ennial paddy weed, caused by cotylenin E, a
new plant growth regulator. Weed Res. Japan
26: 37-39.
- Iijima, T. & T. Shibaoka. Action potential in
the traplobes of *Aldrovanda vesiculosa*. Plant
& Cell Physiol. 22: 1595-1601.
- Nasu, Y. & M. Kugimoto. Lemna (duckweed)
as an indicator of water pollution. I. The sensi-
tivity of *Lemna paucicostata* to heavy metals.
Arch. Environ. Contam. Toxicol. 10: 159-169.
- Okada, H. & M. Tamura. Karyomorphological
study on the Nymphaeales. Journ. Jap. Bot.
56: 367-375.
- Sato, H. & T. Kondo. Biomass production of
waterhyacinth and its ability to remove inorga-
nic minerals from water. I. Effect of the concen-
tration of culture solution on the rates of plant
growth and nutrient uptake. Jap. J. Ecol. 31:
257-267.
- Watanabe, K., T. Fujita & A. Takimoto.
Relationship between structure and flower-
inducing activity of benzoic acid derivatives
in *Lemna paucicostata* 151. Plant & Cell Physiol.
22: 1469-1479.
- Yamasaki, S. Effects of water level on the
development of rhizomes of three hygrophytes.
Jap. J. Ecol. 31: 353-359.

※ 1976~1980 補遺

<1976>

- 邑楽町誌編纂室. 館林市・邑楽町におけるムジナモ発見
とその推移-邑楽町の特記すべき植物-
邑楽町誌基礎資料 第5号 20P.(本会会
員島野好次氏がまとめておられる.)
- 酒井英市・糸瀬貞義・武井昌二. ホテイアオイによる豚
尿汚水の浄化処理(1)、(2).
畜産の研究 30: 57-60, 312-314.
- 徳永隆司・古田直子・森本昌宏. ホテイアオイのカドミ
ウム蓄積. 衛生化学 22: 234-239.
- 富久保男. ホテイアオイの生態学的研究 第1報 実生
の形態的特性. 雑草研究 21: 64-68.

<1977>

生嶋 功. はびこる帰化水生植物. 『自然と生態学者の目』(北沢・他編, 共立科学ブックス): 145-148.

今堀宏三. シャジクモ. 遺伝 31(2): 18-22.

草薙得一. 水田の多年生雑草. 遺伝 31(11): 11-16.

倉沢秀夫他. 松本城の濠の富栄養化の対策と大型水生植物の分布. 「陸水富栄養化とその対策」 3: 12-19.

<1978>

生嶋 功. びわ湖の水生植物の生態研究史. 「環境科学」研究報告集(B2-R12-1): 81-88.

伊藤浩司・橋ヒサ子・中山修一. 柏原東湿原の植物生態学的研究(1). 吉岡邦二博士追悼植物生態論集: 1-19.

加崎英男. シャジクモの分類と生活史. 遺伝 32(8): 4-10.

菊池昶史. 霞ヶ浦の水生植物および沿岸部の生物. 「環境科学」研究報告集(B3-R12-1): 137-142.

橋ヒサ子・斉藤員郎・中山修一. 北海道胆振・十勝地方の低地湿原植生—とくに立地条件との関係について—吉岡邦二博士追悼植物生態論集: 389-403.

浜島繁隆. ジュンサイは雌ずい先熟花である(水草雑誌7). 植物採集ニュース No.99: 36.

本村輝正・立小野主信. 豚舎糞(汚)水のホテイアオイによる浄化. 畜産の研究 32: 898-902.

百瀬忠征. オオカナダモの紅葉とエロデニン. 遺伝 32(9) カラーシリーズ181.

藪野友三郎. スリランカにおける水生雑草 *Eichhornia crassipes* と *Salvinia auriculata* について. 雑草研究 23: 136-138.

Sudo, R., H. Ohtake, S. Aiba & T. Mori. Some ecological observations on the decomposition of periphytic algae and aquatic plants. Water Res. 12: 179-184.

<1979>

荒金正憲・大上和宏. 県北地方ため池の維管束植物フロラ. 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(県北地方): 79-85.

梅津幸雄・荒金正憲. 中津・宇佐平野におけるため池の植生. 同上: 97-104.

亀岡 弘. イトモ精油成分について. 日農芸化学 53: 359-362.

国井秀伸・生嶋 功. 水草. 『図説環境汚染と指標生物』(松中昭一編, 朝倉書店): 176-177.

小宮定志. 食虫植物の捕虫機構と栄養(I), (II). 植物と自然 13(6): 10-16, (10): 6-10.

佐藤雅志. 水田における浮草の生活史—実験植物としての浮草について—農業技術 34(9): 395-399, (10): 438-442.

清水 清. ムジナモの生態. 植物と自然 13(6): グラフ
下田路子・鈴木兵二. 西条盆地(広島県)の湿地植生. "Vegetation und Landschaft Japans" (Bull. Yokohama Phytosoc. Soc. Japan 16): 315-323.

高橋道彦・三枝真知子・植原正博. 琵琶湖周辺のヨシの生態について. 遺伝 33(8): 53-58.

田高昭二. 小川原湖沼群の自然とその保護. 遺伝 33(8): 66-72.

長谷 寛. ホテイアオイの発芽. 採集と飼育 41(7), カラーナップ.

前田和美・国井秀伸・青木一子・生嶋 功. 沿岸帯生態系の動態に關する水生植物. 「環境科学」研究報告集(B57-R12-4): 97-104.

百島敏男・中村大四郎. ヒシに関する研究. 佐賀農試研報(19): 83-115.

百瀬忠征. 写真にみる実験観察材料としてのオオカナダモ(1), (2), (3), (4). 遺伝 33(1), (5), (6), (7)の口絵グラフ.

Ueki, K. & Y. Oki. Seed production and germination of *Eichhornia crassipes* in Japan. Proc. 7-th Asian-Pacific Weed Sci. Soc. Conf. 257-260.

<1980>

森田弘彦・土井康生. ミズアオイとコナギの分類と北海道における分布について. 雑草研究 25: 297-299.

小林登史夫・植木邦和. 新しいバイオマス原料の育成と

利用—水生植物ホテイアオイを例として—
化学と生物 18: 231—236.

豊田清修. ハス『植物の生活誌』(堀田編. 平凡社):
149—155.

Ahmed, S.A., M. Ito & K. Ueki. Water quality
as affected by waterhyacinth decomposition after
2, 4 - D and Ametryne application. Weed Res.
Japan 25: 286—293.

Ikusima, I. The adventive spread of submerged
plants in Lake Biwa, Japan. Tropical Ecology
& Development, 1980: 855—860.

—————. Recent contributions to the study of
aquatic macrophytes in Japan. Proc. 1st Work-
shop for the Promotion of Limnology in Develop-
ing countries (1980, Kyoto): 7—12.

Komiya, S. & C. Shibata. Distribution of the
Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dental
Univ., Gen. Educ. No 9: 163—212.

○「古川市化女沼およびその周辺地域植物調査報告書」
(古川市教育委員会、昭和56年4月、86P+写真15P)

近い将来、化女沼にダムが築造されるため、「現在の姿
を記録するとともに、その保護や保存のための資料とす
ること」を目的として、地元の先生方が調査された報告
書である。周辺の植生、化女沼の水草について結果が報
じられている。貴重な植物として、水草ではミズニラ、
デンジソウ、オオトリゲモ、タチモ、キクモ、ジュンサ
イがあげられている。植物目録から水草をひろってみる
と30種を越え、この沼が豊富な水草相を支えてきたこと
がわかる。ダムの築造によって水位が2m上昇するとい
う。水位管理の仕方によっては、ほとんどの水草が消滅
するだろう。このような報告書が出るのは喜ばしいこと
だが、それがこの沼の水草たちの最後の記録になる(か
もしれない)ことは寂しいことである。

水草については、次の報告が含まれる。

高橋弘子・高橋和吉. 化女沼の水生植物と水生植物群
落(pp 18~21)。

水草関係文献目録(1)

新しく出る文献については『文献リスト』で取り上げ
ていますが、このコーナーでは、1975年以前の文献を
リストアップしてゆきます。すぐれた着想の仕事であり
ながら、その存在すら忘れ去られているものが少なく
ない現実を思うと、このような作業も決して無意味では
ないと考えます。昨年より、暇をみてはいろいろな雑誌に
あたり、現在までに500篇近くリストアップしています。
今後、紙面の余白を借りて少しずつ掲載してゆく予定で
す。短い記事もできるだけ拾うようにしましたが、講演
要旨、抄録等は省いてあります。(角野)

<1887>

斎田功太郎. 東京産輪藻科植物. 植物学雑誌 1: 33—
36.

染谷徳五郎. 食虫草たぬきもノ説. 同上 1: 77—82.

牧野富太郎. 日本産ひるむしろ属. 同上 1: 2—7.

<1888>

伊藤篤太郎. 蓴菜粘稠液細胞論. 植物学雑誌 2: 99—
106.

染谷徳五郎・池野成一郎・牧野富太郎. ひしもどき
(*Trapella sinensis* Oliv. ?)ニ就テ述
ブ. 同上 2: 171—173.

(無署名). 水草ノ葉. 同上 2: 16.

(無署名). おにばすノ花. 同上 2: 87.

<1889>

岡村金太郎. ひつじぐさ科植物ノ比較解剖及ビ其分類.
植物学雑誌 3: 73—90.

—————. 水草の比較解剖. 同上 3: 272—274,
329—333, 374—376.

賛化園主人. 最長キ和名ヲ有スル植物. 同上
3: 346—347.

牧野富太郎. まるばおもだか(*Alisma Plantago*, L.
var. *parviflorum*, Back.)ノ胎芽繁殖.
同上 3: 71.

(無署名). たぬきも(*Utricularia vulgaris*, L.)ハ
多年生本ノ一ナリ. 同上 3: 144.

<1890>

岡村金太郎. ひしもどきノ発生. 植物学雑誌